

## 第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

### 報告書資料 一般 - 106

学校名・団体名	高知市立城西中学校
HPアドレス	<a href="http://www.kochinet.ed.jp/josei-j/enkaku.html">http://www.kochinet.ed.jp/josei-j/enkaku.html</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	中学生が考える避難所運営 ～私たちにできること～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>自分の知っていることやできることを活用して、避難所運営に主体的・協働的に関わろうとする態度を育成する。</p> <p>高知県立大学 DNGL（災害看護グローバルリーダー）のメンバーの協力を得て、学習会「実際の避難所の様子」「避難所における励まし方・関わり方」「災害時の応急処置」「液状化現象について」研修会「KOCHI 防災危機管理展」「女性のための避難所運営ゲーム（HUG）」に参加して避難所運営について学ぶ。</p> <p>また地域の防災訓練に参加し、命を守りつなぐ方法を身につけ、避難所で中学生ができることを考えてパンフレット「中学生の可能性～避難所で私たちができること～」を作成し、地域や高知県内の中学校に発信していく。</p>	

## 1 活動内容

- 4月 第1回県立大学 DNGL とのミーティング  
・県立大学からの提案とそれに対する意見交換  
・今年度の計画について検討
- 5月 全校生徒対象のアンケート「中学生として避難所でできること」の原案作成
- 6月 アンケート実施→集計  
防災に関する研修会への参加（一般対象）
- 7月 第2回県立大学 DNGL とのミーティング  
・アンケート結果の集計および分析  
・アンケート結果や地域の方の意見をもとにパンフレットの構成を検討
- 8月 東日本大震災のDVDを使用した学習会  
応急処置法等に関する講習会の実施  
パンフレット原案作成
- 9月 第3回県立大学 DNGL とのミーティング・・・パンフレットの検討
- 10月 地域防災の日  
・「中学生が避難所で何ができるのか」について生徒会によるプレゼンテーション  
・参加した地域の方との意見交換
- 11月 生徒会主催の防災学習  
・生徒会執行部が体験して学んだことについての報告会  
・避難所カードを活用した運営訓練  
第4回県立大学 DNGL とのミーティング・・・パンフレットの検討
- 12月 パンフレットの印刷
- 1月 パンフレットの完成
- 2月 高知市生徒会交流会で取り組みを発表し、パンフレットを配布  
第5回県立大学 DNGL とのミーティング  
・今年度の取り組みの振り返り  
・作成したパンフレットを活用して今後どのような取り組みを進めていくか  
・高知市の中学生だけでなく、高知県の中学生に広めるためにはどうすればよいか

## 2 災害に関する全校アンケート実施

### ◇アンケートのねらい

これから生徒会が行っていくべき防災活動を明確にするために、現在の全校生徒の防災に対する意識や意見を確認することをねらいとして実施

### ◇アンケートの対象

全校生徒…341人

### ◇アンケートの結果

Q1 災害が起こったときにあなたができることはなんだと思いますか

行動面・・・お手伝い（ボランティア）・人助け・配給・掃除

精神面・・・励まし・小さい子どものお世話・具合が悪い人のお世話

自分自身・・・おとなしく待機する。自分の命を守る・冷静に行動する

家族・・・安否確認・食べ物を分け合う

その他・・・何もできない・スマートフォンの充電を減らさない

Q2 防災についてもっと詳しく知りたいことや行って欲しい防災活動はありますか？

知識として・・・非常食。災害時の連絡方法・防災グッズ・避難場所

技術として・・・応急処置

### ◇アンケート後の取り組み

このアンケートで特に多く上がった意見を参考に、全校生徒により深く防災について理解してもらうため、高知県立大学看護学科の協力のもと防災学習会を企画。さらに高知市内で開催される研修会への参加を決める。

学習会1 「実際の避難所の様子」

2 「避難所における励まし方・関わり方」

3 「災害時での応急処置」

4 「液状化現象について」

研修会1 「KOCHI 防災危機管理展」

2 「女性のための避難所運営ゲーム（HUG）」

### 3 成果

#### (1) 避難所で私たち中学生ができること

##### ◇生活面でのお手伝い

###### ①配給のお手伝い

避難所で食事の配膳を中学生などの子どもたちが行うことにより、配膳などに関するトラブル、クレームが減ったという実際の報告もある。

###### ②体育館の環境をより良くする

- ・体育館の空気の入換え
- ・ゴミ回収ボックスを作る
- ・打ち水、加湿・様々な情報の整理、管理

###### ③掲示板や伝言板の管理

- ・避難所でのルールの掲示
- ・たよりの発行、さまざまな情報の整理、管理
- ・避難所掲示（避難所内のコミュニケーションツールの一つとしての利用など）

##### ◇精神面でのお手伝い ～お年寄りや幼児に寄り添う～

災害時に周りの助けを必要とする、お年寄り、幼児、外国の方、障がいのある方、などの災害弱者と言われる方々、それに加え、災害で親と離れ離れになってしまった小中学生、初めて経験する大きな災害に不安や恐怖で何もできない方など、避難所にはいろいろな方が避難してくる。そのような時に、その方々に中学生が、中心となり心の支えとなることで気持ちを落ち着かせ、さらに避難所内の険悪な空気を和ませることもできる。

#### (2) 中学生からの意見発信 「私たちがやります」を届ける

防災マニュアルの「本当の意味」とは、いざという時、防災マニュアルがなくても自分で考え、臨機応変に行動できる人を育てるためにあるということを学んだ。今回の学習会で、防災マニュアルの「本当の意味」を教わったとき、「マニュアルとは、災害が起こった時に使うもの」と、ほとんどの人が認識しているのではないかと思った。学習会では、熊本地震の避難所の様子を見ながら、実際の現場の状況を知ることが出来ました。そこで目についたのが、落ち着きがない、清潔感がないということである。そこで皆さんに知ってもらいたいことは、避難所は、「想像をはるかに超える状況であり、安心感を求められるような場所ではない」ということだ。これが現状だということは、実際災害が起こったとき「マニュアル通りの行動が出来ていない」ということである。近い将来に起こる可能性が高いといわれている南海トラフ大地震に備え、このような事態が起きないために、防災マニュアルの「本当の意味」をたくさんの人に知ってもらおう必要があると考えた。

避難所運営会議に中学生が直接参加することはまずないであろう。しかしながら、中学生が中学生からの意見や中学生だからこそわかる小さい子ども目線の意見などを運営会議の方々に届けることで、大人から子どもまでが快適に過ごせる避難所づくりができるのではないかと思う。また、[生活面でのお手伝い]でも取り上げたように、「中学生がやります」という意見を言うことで、特に食事の配給では実際の報告もあったように、環境整備や掲示板の管理などでも大人の負担を減らし学生ではできないことにまで手を回していただけるようになると思う。例えば、「グラウンドの駐車場の一部に小さい子が遊べるスペースを作ってほしい」「体育館内に小さい子が落ち着けるスペースを作ってほしい」などである。さらに被災地への支援を考えることとして募金活動や被災地の状況を伝える活動、小中学生だからこそ出来る、学校としての被災地の小中学生との交流事業などもある。

実際に災害が起きたとき、避難所で中学生ができることをひとことと言うと、避難所内の環境整備や周りの手助けを必要とする方々のフォローなど、生活面のお手伝いと共に精神面でのサポートなどを中心に行っていくことだと思う。その時に大切なことは、自分でできることをどうやって見つけるかである。実際の避難所では、いろいろな困ったことや困っている人が出てくると思う。そういった時にそれをただ見ているだけではなく、自分で考えて行動する、または「私にやらせてもらえませんか」「お手伝いできることはありませんか」と言葉をかける勇気もてる生徒に育ってほしいことを願っている。

学習会や研修会に参加して学んだことを、「中学生の可能性～避難所で私たちができること～」という冊子にまとめ、高知市生徒会交流会で紹介し高知市内の中学生に配布することができた。またHUG（避難所運営ゲーム）は静岡県危機管理部に許諾申請を行い本校オリジナルのものを作成し、生徒会執行部がリーダーとなって3年生で実施することができた。避難所運営を学ぶことで障がいのあるかたや高齢者、外国人、小さな子どもを連れた方などいわゆる災害弱者と呼ばれている人たちの状況や気持ちを考える機会となった。いつ来るかわからない災害に備えると同時に、毎日の生活のなかでのコミュニケーションを大切にすることの重要性を彼らが学んでくれたことが大きな成果だと感じている。